

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第35回幹事会議事次第

1 日 時：令和8年4月20日（月）11時00分～12時00分

2 場 所：オンライン（Zoom）

3 出席者：寶（会長）、甘利（副会長）、岡島（副会長）、面、【遠藤】

オブザーバー：林（I-レジリエンス）

陪席者：松本（防災科学技術研究所）、倉谷（〃）、石塚（〃）、小松原（セコム）、
永松（筑波大学）、増田（〃）、大徳（〃）、酒井（〃）、根本（〃）

（敬称略，【】欠席）

4 議事

- ・筑波大学の事務体制の変更について

I. レジリエンス研究教育推進コンソーシアムに係る事案

【審議事項】

- (1) 有識者会員の推薦について……………資料1
- (2) 幹事会・運営委員会等の体制について……………資料2
- (3) 令和8年度年間活動計画について……………資料3
- (4) その他

【報告事項】

- (1) キャリアマッチングデー2026について（5月25日開催）……………資料4
- (2) 2025年度R2EC・巨大災害研究会合同シンポジウム開催報告（3月3日開催）……………資料5
- (3) その他

【意見交換事項】

- (1) 令和8年度シンポジウムについて……………資料6

II. 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラムに係る事案

【審議事項】

- (1) その他

【報告事項】

- (1) TGSW2026セッション企画について（10月2日開催）……………資料7
- (2) 3月修了者および4月入学者について（協働大学院関連）……………資料8
- (3) その他
 - ・学位プログラムオープンキャンパスについて（4月26日開催）……………資料9

(配付資料)

資料 1	有識者会員の推薦について.....	p.3
資料 2-1	幹事会委員名簿（案）	p.4
資料 2-2	総会・運営委員会委員名簿（案）	p.5
資料 2-3	【参考】役員名簿.....	p.6
資料 3	令和 8 年度活動計画（案）	p.7
資料 4	キャリアマッチングデー2026 ポスター	p.8
資料 5	令和 7 年度合同シンポジウム開催報告書（セコム科学技術振興財団）	p.9
資料 6	令和 8 年度シンポジウムについて.....	p.11
資料 7-1	TGSW2026 セッション企画の選考結果及び配分額について.....	p.12
資料 7-2	TGSW2026 セッション企画提案書.....	p.13
資料 8	3 月修了者および 4 月入学者について（協働大学院関連）	p.16
資料 9	学位プログラムオープンキャンパス ポスター.....	p.17

令和8年4月20日
コンソーシアム副会長 岡島

有識者会員の推薦について

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約第4条

「(3) 有識者会員 会長が本コンソーシアム事業に特別に寄与すると認めた個人」
の規定に基づき、下記のとおり 林 春男 氏を有識者会員として推薦いたします。

林氏には、前コンソーシアム会長ならびに運営委員としてのご知見・ご経験を踏まえ、
今後も本コンソーシアムの活動にご協力いただけるものと考えております。

ご審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

記

1. 対象者

氏 名：林 春男 氏

所属・役職：I-レジリエンス株式会社 顧問 / 京都大学 名誉教授

2. 期日

令和8年4月1日～

3. 今後のスケジュール（予定）

- ・令和8年4月20日 幹事会（審議）※本日
- ・令和8年6月16日 総会（審議）

以上

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム幹事会 委員名簿（案）

〔令和8年 月 日版〕

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第10条第4項（1）
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクインテリジェンスグループ グループリーダー	第10条第4項（2）
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第10条第4項（2）
面 和成	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー	第10条第4項（4）
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	理事・副学長（研究担当）	第10条第4項（5）

◎は議長を示す

オブザーバー

氏名	機関名	所属・職名	備考
林 春男	┃レジリエンス株式会社 京都大学	顧問 名誉教授	有識者会員

（参考）

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第10条第4項 幹事会は、次の委員で構成する。

- （1）会長
- （2）副会長 2名
- （3）正会員の中から互選により選出する委員 若干名
- （4）リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー
- （5）その他、会長が指名する者 若干名

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会・運営委員会 委員名簿 (案)

〔令和8年 月 日版〕

氏名	機関名	所属・職名	選出区分
小山 覚	株式会社エヌ・エフ・ラボラトリーズ	代表取締役	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
甘利 康文	セコム株式会社	IS研究所 リスクインテリジェンスグループ グループリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
真城 源学	東急株式会社	社長室 政策グループ	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
狩矢 淳雅	東急プロパティマネジメント株式会社	BC推進センター センター長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
(調整中)	東京海上日動火災保険株式会社		第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
三井 健	株式会社日本総合研究所	セキュリティ統括部	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
柳生 智彦	日本電気株式会社	セキュアシステムプラットフォーム研究所 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
明田 京子	株式会社モリタホールディングス	グループコーポレート本部 人事部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
池田 高志	NTT宇宙環境エネルギー研究所	企画担当部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
長瀬 貫隆	一般財団法人DRIジャパン	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
星川 英	一般財団法人電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当スタッフ 上席	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
安部 原也	一般財団法人日本自動車研究所	自動走行研究部 主任研究員	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
蔭山 康太	国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	航空交通管理領域 領域長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
蒲生 昌志	国立研究開発法人 産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
◎ 寶 馨	国立研究開発法人 防災科学技術研究所	理事長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
山際 謙太	独立行政法人労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	機械システム安全研究グループ 部長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
大和田 祐二	福島国際研究教育機構	執行役	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
Wei-Sen Li	National Science and Technology Center for Disaster Reduction	Secretary General	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
遠藤 靖典	国立大学法人筑波大学	理事・副学長(研究担当)	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
岡島 敬一	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群長	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)
面 和成	国立大学法人筑波大学	システム情報系 教授 システム情報工学研究群リスク・レジリエンス工学学位 プログラムリーダー	第8条第4項(1) 第9条第4項(1)

◎は議長を示す

オブザーバー

氏名	機関名	所属・職名	備考
林 春男	1-レジリエンス株式会社 京都大学	顧問 名誉教授	有識者会員

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第8条第4項 総会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

第9条第4項 運営委員会は、次の委員で構成する。

- (1) 正会員の代表者
- (2) その他、会長が指名する者

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム役員名簿

〔令和8年4月1日版〕

役職名	氏名	任期
会長	寶 馨	令和7年4月1日～令和9年3月31日
副会長	甘利 康文	令和7年4月1日～令和9年3月31日
副会長	岡島 敬一	令和8年4月1日～令和9年3月31日

(参考)

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

(1) 会長

(2) 副会長 2名

2 会長は、正会員の中から互選により選出する。

3 副会長は、正会員の中から互選により選出する。

4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。

5 役員任期は、原則2年とし、再任は妨げない。

6 会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された会長の任期は、新たに開始するものとする。これに伴い、副会長の任期も新たに開始するものとする。

7 副会長が任期中に欠けた場合、新たに選出された副会長の任期は、前任者の残任期間とする。

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 令和8年度年間活動計画

(令和8年4月20日版)

資料3

	コンソーシアム関連				学位プログラム関連
	総会・運営委員会	幹事会	シンポジウム	その他	
令和8年4月		第35回幹事会 4/20(月) 11:00-12:00 オンライン			募集要項公開 4月下旬 オープンキャンパス 4/26(日)
5月				キャリアマッチング デー 5/25(月) 午後 筑波大学	
6月	第9回総会& 参画機関見学会 6/16(火) 午後 防災科研 & オンライン				
7月		第36回幹事会 オンライン			7月期入試 前期課程入試(推薦) 後期課程入試(一般・社会人)*R8.10月入学
8月					8月期入試 前期課程入試(一般・社会人) 後期課程入試(一般・社会人)
9月					
10月		第37回幹事会 オンライン	単独シンポジウム ハイブリッド	TGSW2026 10/2(金) 午後 筑波大学	
11月	第21回運営委員会& 参画機関見学会 対面/ハイブリッド				
12月					
令和9年1月					1~2月期入試 前期課程入試(一般・社会人) 後期課程入試(一般・社会人)
2月		第38回幹事会 オンライン			
3月	第22回運営委員会& 参画機関見学会 対面/ハイブリッド		巨大災害研究会との 合同シンポジウム ハイブリッド		

筑波大学 × レジリエンス研究教育推進 コンソーシアム キャリアマッチングデー

CAREER MATCHING DAY

各業界をリードする企業・研究機関の採用担当者、
実務担当者、研究者から話を聞き、
交流できるチャンスです。
この貴重な機会をぜひご活用ください!

2026年5月25日

13:30-14:45 全体セッション(参加機関ショートプレゼン)

14:45-16:30 個別相談カフェ

会場 筑波大学3B棟2階
プレゼンルーム(3B213)

筑波大生
限定

こんな大学院生・学類生の皆さんの参加をお待ちしています。

これから参加できる
インターンシップ
情報を探したい

就職やキャリアに
関する情報を得たい

企業や研究機関の方と
話して見識を広げたい

参加機関

企業

エヌ・エフ・ラボラトリーズ
セコム
日本総合研究所
日本電気(NEC)
日本電信電話(NTT R&D)
三菱総合研究所
モリタホールディングス

研究機関

産業技術総合研究所(AIST)
電子航法研究所(ENRI)
防災科学技術研究所(NIED)
日本自動車研究所(JARI)
福島国際研究教育機構(F-REI)

参加対象

- システム情報工学研究群の大学院生
(前期・後期)
- 他、関心のある大学院生・学類生

申込方法

事前登録制

右記QRコードより登録
してください



<https://forms.office.com/r/FY4p6J9CEz>

登録メ切：5月24日(日)



筑波大学
University of Tsukuba



理工情報生命学術院
システム情報工学研究群
Degree Programs in Systems and Information Engineering
Graduate School of Science and Technology



レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
Resilience Research and Education Promotion Consortium

公益財団法人 セコム科学技術振興財団
学術集会および科学技術振興事業助成
開催報告書

報告年月

令和8年 4月

申請者所属・氏名

筑波大学 岡島 敬一 印

開催集会名

2025年度 巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム合同シンポジウム
「安全・安心をもたらす防災 DX」

主催者

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム

開催日程

令和8年3月3日（火）

開催場所

住所：東京都港区虎ノ門 2-4-7 T-LITE(トライト)

施設名：ビジョンセンター東京虎ノ門 501C ※オンライン併催

Web サイト URL

<https://r2ec.jp/archives/2863>

参加者

180名（対面36名、オンライン144名）

開催報告

2026年3月3日、2025年度巨大災害研究会・レジリエンス研究教育推進コンソーシアム合同シンポジウム「安全・安心をもたらす防災 DX」が、ビジョンセンター東京虎ノ門およびオンラインを併用したハイブリッド形式で開催されました。総合司会は面 和成氏（筑波大学）が務め、3本の講演とパネルディスカッションが行われました。当日は民間企業、研究機関、大学などから計180名が参加し、会場・オンラインともに終始活発な意見交換がなされました。

基調講演では、臼田裕一郎氏（防災科学技術研究所／筑波大学）が登壇し、防災 DX のこれまでの歩

みと現在地、そして今後の展望について、具体的な事例を交えながら全体像を紹介しました。SIP4D や ISUT による情報共有基盤の整備、能登半島地震を踏まえた被災者データベースの構築、防災庁創設に向けた動きや「スマート防災ネットワーク」構想など、産官学民が連携しながら防災立国を目指す方向性が示され、参加者にとって多くの示唆を与える内容となりました。

続く話題提供では、安田健志氏（LINE ヤフー）が、LINE・Yahoo! JAPAN といった日常的に利用されているサービスを生かした防災 DX の取り組みを紹介しました。普段の生活に自然に溶け込んだ仕組みが、防災通知や避難所受付のデジタル化などに生かされ、非常時に力を発揮する点が印象的でした。

続いて、山田晃久氏（モリタホールディングス）は、消防指揮を支える通信・センシング技術について紹介しました。能登半島地震で明らかになった通信途絶の課題を踏まえ、920MHz 帯を用いたアドホックネットワークや広域通信技術の重要性について、現場目線での説明が行われました。

パネルディスカッションでは、岡島敬一氏（筑波大学）の司会のもと、井ノロ宗成氏（立命館大学）による「DX は単なる技術革新ではなく、社会のあり方そのものを変える取り組みである」という問題提起を起点に議論が進められました。防災 DX を技術導入にとどめず、社会や地域にどのように根付かせていくかが大きなテーマとして共有されました。

臼田氏は、災害対応が依然として職員や住民による入力作業に多くを依存している現状を指摘し、スマートフォンや各種センサーから得られる情報を活用した、「特別な入力を前提としない仕組み」へと転換していく必要性を強調しました。

安田氏は、日常の中に防災を自然に組み込む重要性に触れ、スポーツイベントなど他分野との連携を通じて、無理なく防災への関心を高めていく取り組みを紹介しました。

山田氏は、火災件数の減少により現場経験の継承が難しくなっている現状を踏まえ、AI 活用への期待を示す一方で、実運用に向けた検証や慎重な運用の必要性について課題を提示しました。

これらの議論を受けて、会場・オンライン参加者からも多くの質問やコメントが寄せられ、地域の実情や現場の視点を踏まえた発言が相次ぎました。さらに、能登半島地震を経験した自治体担当者からは、現場での取り組みや改善事例が共有されるなど、参加者を巻き込んだ双方向の議論が展開されました。

一連の議論を通じて、DX を単なる効率化にとどめるのではなく、日常の行動や地域のつながりに根ざした形で実装していくことの重要性が浮かび上がりました。防災 DX が「特別なもの」ではなく、暮らしの延長線上で機能する仕組みとして定着していく必要性を強く感じさせるセッションとなりました。



令和 8 年度シンポジウムについて

令和 8 年度は、コンソーシアムとして以下のシンポジウム開催（2 回）を計画している。
このうち、①の単独シンポジウムのテーマについて、意見交換を行いたい。

① R2EC 単独シンポジウム

時期：令和 8 年 10～11 月

場所：未定（東京またはつくばを想定）

目的：コンソーシアム及び各参画機関の教育・研究・実践の成果を広く発信するとともに、コンソーシアム参画機関同士の交流を深め、連携を強化する

テーマ：未定

② 巨大災害研究会との合同シンポジウム

時期：令和 9 年 2～3 月

場所：未定（関西地区を想定）※原則、関東・関西の交互開催

目的：両団体の教育・研究・実践の成果を広く発信するとともに、巨大災害研究会との連携を強化する

(参考) 過去のシンポジウム

◆R2EC 単独シンポジウム

開催日	開催場所	テーマ	講演者
R7.12.1	東京・オンライン	空と宇宙の技術で支える、地域のレジリエンス	防災科研/奄美瀬戸内町/筑波大学/F-REI
R6.10.18	東京	博士人材の活用を再考する： 産学協働で描くイノベーター育成の道	文科省/NTT/筑波大学
R3.10.13	オンライン	ニューノーマルに拠るレジリエンス社会の実現に向けて ～COVID-19 がもたらした気づき～	筑波大学/NEC/防災科研
R3.2.3	オンライン	COVID-19 に学ぶこれからの R2（リスク・レジリエンス）のあり方	順天堂大学/DRI/筑波大学
H31.3.26	台湾	Creating Safety and Security	筑波大学/防災科研/セコム
H30.12.14	東京	安全・安心を創る ～レジリエンス研究教育推進 コンソーシアムが目指すもの～	筑波大学/防災科研/セコム

◆合同シンポジウム

開催日	開催場所	テーマ	備考
R8.3.3	東京・オンライン	安全・安心をもたらす防災 DX	巨大災害研究会と合同
R7.2.28	大阪・オンライン	スマートシティと防災 －レジリエントな都市のデザイン－	巨大災害研究会と合同
R6.3.4	東京・大阪・ オンライン	レジリエントな DX 社会をつくる －災害・防災の最前線－	巨大災害研究会と合同
R5.9.10	広島・オンライン	5D-MaaS による空から創る未来のまち in 広島	5D-MaaS 共創拠点と合同
R5.2.14	東京・オンライン	地震火山観測研究が目指すレジリエンスの向上	Joint Seminar 減災と合同
R4.2.14	オンライン	地域性を考えた減災・レジリエンスのあり方	Joint Seminar 減災と合同
R1.10.25	大阪	「想定外」を想定で作るこれからの人材育成とは	Joint Seminar 減災と合同

令和8年3月19日

TGSW2026 セッションオーガナイザー 殿

副学長（企画評価・広報担当）

西尾 チヅル

TGSW2026 セッション企画の選考結果及び配分額について（通知）

日頃より TGSW2026 の実施に向けてご協力いただき、誠にありがとうございます。

標記について、「Tsukuba Global Science Week 2026 セッション企画募集要項」に基づき審査を行った結果、下記のとおり決定しましたのでお知らせします。添付の「TGSW2026 今後の手続き等について」をご確認のうえ、実施準備を進めてくださるようお願いいたします。

なお、審査員からのコメントが付されたセッションは、その内容の反映についてご検討をお願いします。

記

【審査結果】： 採択

セッション番号	セッション区分	セッション名	セッションオーガナイザー (※)	事務局からの支援額 (円)
4-6	自由テーマセッション	学際的リスク・レジリエンス工学の進展	システム情報系 面 和成	287,320

※共同オーガナイザーがいる場合は、筆頭1名のみ記載

【セッション開催日時／開催場所】

10月2日（金） 14:00～17:00／第6会議室

<本件担当>

広報局国際会議推進部門（内線 4158/4207）

E-mail: TGSWsecretariat@un.tsukuba.ac.jp

TGSW2026セッション企画提案書

【提出期限:2026年2月13日(金)】

企画案提出・問合せ先 TGSW事務局(広報局 国際会議推進部門)
E-mail: TGSWsecretariat@un.tsukuba.ac.jp

(注)緑色のセルは入力必須です。

I 希望するセッション区分

7 自由テーマセッション

II セッションオーガナイザー情報

(II-1)セッションオーガナイザー

- ・学外の研究機関と共同でセッションを実施する場合でも、セッションオーガナイザーは本学に籍を置く教職員(含:連携教員)、学生に限ります。
- ・採択結果は原則としてセッションオーガナイザーに通知します。
- ・複数のオーガナイザーがいる場合、代表者1名をセッションオーガナイザーとし、その他のオーガナイザーに関する情報は「共同オーガナイザー」の欄に記載してください。
- ・学生がオーガナイザーの場合は、本学の教員を共同オーガナイザーに含めてください。
- ・所属機関に略称がある場合でも正式名称でご記入ください。

氏名	日本語	面 和成		
	英語	Kazumasa OMOTE		
所属	日本語	筑波大学システム情報系		
	英語	Institute of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba		
職名	日本語	教授	その他(右に記入)	リスク・レジリエンス工学学位プログラム 学位プログラムリーダー
	英語	Professor	その他(右に記入)	Chair, Master's/Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering
連絡先	E-mail	omote@risk.tsukuba.ac.jp		
	内線	5277		

(II-2)共同オーガナイザー(いる場合のみ)

- ・共同オーガナイザーが2人以上いる場合は、枠を追加してご記入ください。
- ・所属機関に略称がある場合でも正式名称でご記入ください。

氏名	日本語	岡島 敬一		
	英語	Keiichi OKAJIMA		
所属	日本語	筑波大学システム情報系		
	英語	Institute of Systems and Information Engineering, University of Tsukuba		
職名	日本語	教授	その他(右に記入)	システム情報工学研究群長
	英語	Professor	その他(右に記入)	Dean, Degree Programs in Systems and Information Engineering
連絡先	E-mail	okajima@risk.tsukuba.ac.jp		
	内線	6435		

Ⅲ セッション情報

企画されているセッション情報について記入ください。

(Ⅲ-1) セッションの実施形式

- ・本項目の会場希望は現時点での意向調査であり、実際の割り当てはセッション企画決定後に調整します。
- ・各会場の詳細は別紙1「大学会館会場一覧」でご確認ください。
- ・部屋の数に限りがあるため、出来る限り第5希望まで記入してください。

セッション区分	7 自由テーマセッション (自動入力)	
形式	ハイブリッド	
第1希望の会場	9 第6会議室(定員28)	確定
第2希望の会場	8.第5会議室(定員28)	・オンライン形式の場合は記入不要。 ・選択肢以外の会場で実施を希望する場合は備考欄に記載してください。
第3希望の会場	7.第3会議室(28-60)	
第4希望の会場		
第5希望の会場		
対面参加予定者数	30人	
備考		

(Ⅲ-2) セッション実施希望日時

■オンライン形式の場合

- ・オンライン形式のセッションの実施時間帯に指定はありません。

第1希望の日時		: ~ :	記入例:14:00~17:00
第2希望の日時		: ~ :	
備考			

■対面形式(ハイブリッド含む)の場合

- ・対面形式のセッションの実施時間帯は、原則として「午前:10:00~12:30」、「午後:14:00~17:00」の中で設定してください。複数の時間帯を選択することも可能です。
- ・選択した時間帯の中で、希望する開始・終了希望時間を記入ください。

第1希望の日時	10月2日(金)	14:00 ~ 17:00	確定
第2希望の日時	10月2日(金)	10:00 ~ 12:30	・10月1日(木)午前は開会式のため、セッションは設定できません。
第3希望の日時	10月1日(木)	14:00 ~ 17:00	
備考	上記で表示できない設定を希望する場合は、備考欄に記入ください。		

(Ⅲ-3) セッション概要

- ・採択決定後に、TGSWの公式サイトに掲載しますので、参加者を意識した記述をお願いします。

セッション名(日)	学際的リスク・レジリエンス工学の進展
セッション名(英)	Progress in Interdisciplinary Risk and Resilience Engineering
キーワード (英語で5つまで)	Risk, Resilience, Collaborative Graduate School, Comprehensive Interdisciplinary Fields
セッション概要 (日本語) ※200-300字	現代社会にはあらゆるところに多くの「リスク」が潜んでいる。そして「レジリエンス」とは、トラブルが発生した際に、すばやく、しなやかに立ち直る力のことである。この「リスク」と「レジリエンス」を専門的に学べる大学院プログラムは国内外でも限られており、本リスク・レジリエンス工学学位プログラムは其中でも早期から取り組んできた先駆的なコースである。「協働大学院方式」を採用し、企業や研究機関と連携しながら、高度な専門知識と実践的なスキルを兼ね備えた人材の育成を目指している。前身であるリスク工学専攻の設立から25周年という節目を迎えるにあたり、その総括として、多様な研究分野による話題提供を行う。

<p>セッション概要 (英語) ※100-150ワード</p>	<p>In contemporary society, numerous risks lurk in every aspect of our daily lives. Resilience refers to the ability to recover quickly and flexibly when disruptions or troubles occur. Graduate programs that allow students to study “risk” and “resilience” in a specialized and systematic manner are limited both in Japan and abroad. Among them, the Risk and Resilience Engineering Degree Program is one of the pioneering courses that began addressing these topics at an early stage. The program adopts a Collaborative Graduate School System, working closely with companies and research institutions to cultivate professionals equipped with advanced expertise and practical skills. As the predecessor program, the Risk Engineering Department, marks its 25th anniversary, we will present topics from a wide range of research fields as a comprehensive reflection on its achievements to date.</p>
---	--

(Ⅲ-4) セッションタイムテーブル

・セッションの進行案をタイムテーブル形式で記入してください。

<p>14:00 -14:20 Topic talk #1(リスク・レジリエンス基盤分野), 大学院生またはポスドク(TBD), 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p> <p>14:20 -14:40 Topic talk #2(情報システム・セキュリティ分野), 大学院生またはポスドク(TBD), 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p> <p>14:40 -15:00 Topic talk #3(環境・エネルギーシステム分野), 大学院生またはポスドク(TBD), 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p> <p>15:00 - Break</p> <p>15:10 -15:35 Topic talk #4(都市防災・社会レジリエンス分野), Dr. Wen-Ray SU (National Science and Technology Centre for Disaster Reduction (NCDR), Taiwan)</p> <p>15:35 -16:00 Topic talk #5(都市防災・社会レジリエンス分野, 国際ワークショップ紹介), ”International Training Workshop on Disaster Risk Reduction Innovation” Introduction, Dr. Wei-Sen LI (National Science and Technology Centre for Disaster Reduction (NCDR), Taiwan)</p> <p>16:00 -16:05 Closing & Group photo</p> <p>16:05 -16:45 Poster Session 大学院生, 筑波大学リスク・レジリエンス工学学位プログラム</p>
--

(Ⅲ-5) 当該企画のアピールポイント

・学内審査に使用します。箇条書きで、簡潔にお書きください。

<p>筑波大学大学院「リスク・レジリエンス工学学位プログラム(博士前期課程・博士後期課程)」は、学外に置くコンソーシアムを運営母体とした「協働大学院方式」を取り入れた、社会的な要請をよりスピーディーに教育課程に反映できる他に類を見ない大学院教育プログラムである。学際的にリスク・レジリエンス工学を専門的に学べる大学院プログラムは国内外でも限られており、本学位プログラムは其中でも早期から取り組んできた。前身であるリスク工学専攻の設立から25周年という節目を迎えるにあたり、その総括として、運営母体であるレジリエンス研究教育推進コンソーシアム(Resilience Research and Education Promotion Consortium, R2EC)参画機関の台湾国家災害防救科技中心(National Science and Technology Centre for Disaster Reduction, NCDR)より2名の専門家を招聘するとともに、博士後期課程学生ならびに博士研究員による各研究分野について話題提供を行う。加えて、博士前期課程学生によるポスターセッションも実施する。</p>

3月修了者および4月入学者について（協働大学院関連）

【令和8年3月 修了者の状況】

区分	博士前期(修士)	博士後期(博士)	合計
修了者数（合計）	39	6	45
L① 協働大学院教員を 指導教員とする学生	主指導：0 副指導：11	主指導：0 副指導：3	主指導：0 副指導：14
L② 参画機関所属者 (社会人学生)	0	0	0
L③ 参画機関への就職者	(調査中)		

【令和8年4月 入学者の状況】

区分	博士前期(修士)	博士後期(博士)	合計
入学者数（合計）	47	16	63
L① 協働大学院教員を 指導教員とする学生	主指導：3 副指導：(調 白田先生2名 北島先生1名)	主指導：2 副指導：(調査中) 白田先生2名	主指導：5 副指導：(調査中)
L② 参画機関所属者 (社会人学生)	0	2 防災科研 JARI	2

世の中を、**リスク**で診る。
レジリエンスで、未来を看る。



リスク・レジリエンス工学 学位プログラム
 Master's/Doctoral Program in Risk and Resilience Engineering

あなたの個人情報はスマホ経由で全世界へとつなわれ、
 あなたの暮らしは、道路・水道・電気・ガスなどのライフライン頼み。

あなたの家は約 2,000 以上の活断層が走る地震列島に建ち、
 その日本は、大きな環境問題を抱える、地球という惑星の一部です。

現代社会にひそむ無数の「リスク」。

有事からしなやかに復旧するための「レジリエンス」。

時代が待望するこの分野で学び、自らの手で、未来を創り出してみませんか？

筑波大学大学院 理工情報生命学術院 システム情報工学研究群
 リスク・レジリエンス工学学位プログラム
 オープンキャンパス

2026. **4/26** 日

場所：総合研究棟 B 7・8 階

一部、オンライン中継を予定しております。詳しくはHPをご覧ください。

<https://www.risk.tsukuba.ac.jp/>

リスク・レジリエンス工学 検索